

特別企画シリーズ

最終美術思考工房の消滅とその後

—美学校30周年を記念して—

1999.2.2 tue — **5.1** sat

[松澤宥と最終美術思考工房“からの”アーティストたち]

本展は、ニューヨークのクィーンズ美術館における特別展「コンセプチュアリスト・アート：その始源 1950～1980年代」と照応するかたちで構想された。また、1969年に反、美術大学的なユニークな美術教育機関として、60年代美術の精鋭を講師陣として開設された美学校の30周年を記念する意味もかねそなえている。

「最終美術思考工房」は、1971年から1980年まで、東京、神田の美学校に存在した講座の名前である。講師の松澤宥は、コンセプチュアル・アートと呼ばれる分野の創始者の一人として、60年代初頭から現在に至るまで世界的に活躍している。その松澤を中心とした最終美術思考工房は、既存の美術教育の対極にあつて「物づくり」ではなく「物の消滅」を目指した觀念芸術の講座であつた。「美術の終末を思考せよ」という命題の元に、当時、いかなる“授業”（！）が成立しえたのか？またその“授業”から表現の世界へと帰還していった当時の受講者たちは、その後どのような活動を続けているのか？

現代美術の既存の構造から絶縁して、20年間の沈黙を続けていた暗黒星雲が、今、再びわれわれの眼前に出現する。

Alternative Art Space

Para GLOBE